

生物・生態サイトカード

通しNo.		A-4	更新日	2025/3/19
サイト名		かつらじま 桂島のシロウマアサツキ		
基本情報	区分	☐ 動物 ☒ 植物		
	生息地	島根県松江市島根町加賀(桂島)		
	分類			
	管理団体／保護団体／モニタリング			
	留意点			
サイトの解説	生物・生態	桂島は、島根半島の加賀港の沖に浮かぶ、周囲およそ1km程度の小さな島である。島の大部分は急峻な崖地に囲まれているが、一部には砂浜もみられ、海水浴場やキャンプ場としても利用されている。約1500万年前に海底に噴出した溶岩からなり、発達した節理など、地質的な見所が多い景勝地である。 海岸沿いの岩場は、表土が薄く、乾燥しやすく、強い潮風を受け、植物の生育環境としては厳しい環境にあるが、このような環境に適応した植物をみることができる。黄色い花をつけるタイトゴメ、白い花のハマボッスやハマハタザオなどは、乾燥に耐えられるよう厚みのある葉を持っており、海岸特有の植物といえる。 その中でも6月ごろに淡紫色の花をつけるシロウマアサツキは、本地の特徴的な植物といえる。高さ30～50cmの花茎を伸ばして、その先に淡紫色の花を多数つけて初夏の崖地を美しく彩る。 本種は主に山地の砂礫地などに生える多年草で、北海道や本州中部以北に分布するとされる。白馬岳で見つかったことが名の由来とされるように、主に高山帯に生える植物とされる。近畿地方北部や対馬など西日本の日本海側にも点在し、島根県内では隠岐諸島および島根半島の一部に生育する。中部以北の高山が分布の中心であることから、北方系の植物と称される。日本列島が冷涼であった時代に南下して、その後の温暖な時代になっても、海岸の岩上などに残ってきたものと考えられる。		
	地形・地質、歴史・文化等	氷期・間氷期を通した日本海の高気圧は島根半島の植生にも大きく影響を及ぼした。対馬暖流の流入が阻害された氷期には日本海表層水が寒冷・低塩分化し、たとえば、最終氷期最盛期(およそ2.1万年前)5月の日本海南部の気温は現在よりおよそ11℃低い3～6℃、塩分は26～29であったと日本海の高気圧海底試料から解析されている。		
写真・図等		 桂島の岩上に咲くシロウマアサツキ タイトゴメ		
参考文献		大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(2015)改訂新版日本の野生植物1. 井上雅仁・三島秀夫・深谷 治・八幡浩二・野辺一寛(2019)隠岐諸島における北方系植物数種の分布について.島根県立三瓶自然館研究報告 17: 37-43. 大橋広好・門田裕一・邑田 仁・米倉浩司・木原 浩(2015)改訂新版日本の野生植物1.		